

青少年健全育成マニュアル

2012年社団法人 札幌青年会議所
札幌コミュニティ構築委員会

①地域を知ること

地域の青少年を健全に育成するためには、我々大人が地域を知っていなければならない。

1 地域の特色とはどんなものかを知ろう。

- イ、地理、歴史、文化を知り、地域コミュニケーションに取り入れましょう。
- ロ、どんな催しやイベント、交流をしているのかを知りましょう。

2 各団体ではどんな取り組みをしているのかを知ろう。

- イ、まちづくりセンターなどでは様々な団体の活動を知る事ができます。
- ロ、それぞれの活動を知ることで交流のきっかけを作り多くの出会いや発見を促す事が出来ます。

3 地域のどんなところに問題点があるのかを知ろう。

- イ、地域での悩みや困っていることはありますか？またそれを相談する窓口はありますか？
- ロ、問題点を地域で共有することにより解決への糸口が見つかるかもしれません。

②人を知ること

地域の青少年を健全に育成するためには、我々大人が子供達を知っていなければならない。

1 大人達が子供達を知っていたとしても子供達は大人達を知りません。

- 子供達に自分を知ってもらいましょう。
- イ、あいさつをしよう。人との交流はあいさつから。
- ロ、まずは自分の自己紹介。自分がどんな人なのかを知ってもらいましょう。
- ハ、最初は一言二言でもかまいません。少しずつ信頼関係を深めていきましょう。

2 ご近所との交流を拓けましょう。ご近所様と「こんにちは」の挨拶。

- イ、顔見知りや友人が一人でも増えれば楽しみが一つ増えてきます。
- ロ、地域での交流を拓けることにより、より多くの子供達を知る事が出来ます。
- ハ、地域住民との関わりの中から地域の長所、短所などが見え、情報を共有する事が出来ます。

3 井戸端会議のような極々小さなコミュニティであってもそれが集まれば大きなコミュニティとなる。

- イ、何気ない情報であれ良くも悪くも何かに繋がっています。
- ロ、2、3人から10人へ。10人から50人へと情報は駆け巡るものです。
- ハ、情報を鵜呑みにしてはいけません。情報の真偽の確認が必須です。

③心構え

地域の青少年を健全に育成するためには、我々大人がしっかりと心構えを持たなければならぬ。

1 我々大人の言葉、行動は子供達の模範とならなければなりません。

- イ、子供は大人を曇りのない眼で見ています。誠実な言動で接しなければなりません。
- ロ、普段の言動から青天白日（心にやましいことがまったくないこと。）であるように努めましょう。

2 何気ないしぐさ一つが青少年に大きな影響を与える事を忘れてはなりません。

- イ、子供達は挨拶や話しをしている時に大人達の表情や仕草などをよく見ています。
- ロ、相手に不信任を持たせない為に常に真摯な姿勢で向き合きましょう。

④相手の話を聞くとき

地域の青少年を健全に育成するためには、我々大人が子供達の声を正面から受け止めなければならない。

1 社会や大人の都合を聞かせるだけでは子供達は何も話してはくれません。

- イ、まずは相手の話を聞く事が大切です。楽しい事はなにか、不安や不満はなにかを引き出しましょう。
- ロ、常に相手の眼を見て真剣に話しを聞きましょう。眼を見つめていれば心が伝わります。
- ハ、適度に相づちを入れ表情豊かに話を聞きましょう。「話を聞いてくれている」と思って貰うことはとても大切です。話をしやすい雰囲気づくりをしましょう。

2 相手の話を否定するだけでは何も生まれません。相手の気持ちや環境等を理解する事が大切です。

- イ、気持ちや環境・状況というのは千差万別であり、子供達の事情もそれぞれです。だからこそ話を良く聞き、相手の気持ちを理解しなければなりません。
- ロ、子供も一人の人間であることに留意し誠心誠意、話を聞く事が肝心です。
- ハ、聞きたい内容を話したがる事もある事往々にしてあります。無理に聞き出そうとせずに話してくれるまで待つことも重要です。

⑤こちらが話をするとき

地域の青少年を健全に育成するためには、我々大人が子供たちにしっかりと語りかけなければならない。

1 大人が子供に話をする際には絶対に上から目線や高圧的になってはなりません。

- イ、大人は子供に対して高圧的になりがちです。それでは子供達は心を開かないばかりか避けるようになってしまいますし、時には攻撃的になってしまう場合もあります。
- ロ、大人たちの安易な言葉が子供達を傷つける事もあります。
- ハ、一度信頼を失うと回復は困難です。相手と同じ目線を持たなければ何も聞いてはもらえませんし何も伝えることができません。

2 良いものは良い。悪いものは悪いとはっきりさせましょう。

- イ、子供を叱るのは大人の役目であり、子供を褒めるのも大人の役目です。
- ロ、叱る時はしっかりと叱り、褒める時は大きく褒めることが大切です。
- ハ、「何が良くないのか」「なぜ良くないのか」をしっかりと伝えましょう。

3 常に相手の眼を見て真剣に話し、心に訴えかけましょう。

- イ、相手の気持ちもこちらの気持ちも眼に現れます。
- ロ、想いを言葉に乗せ眼で訴えかけなければ相手の心には何も響きません。
- ハ、常に相手の眼を見て真剣に話し、心に訴えかけましょう。

⑥危険信号

地域の青少年を健全に育成するためには、我々大人が子供達からの危険信号を察知しなければならない。

1 子供達はそれぞれの方法で何らかの信号を大人達に送っています。

- イ、常に子供達の何気ない仕草や表情、言葉等に注意し、小さな信号を早期に察知しましょう。
- ロ、元気がない、妙に明るく振る舞う、どこか挙動不審など、些細な「普段との違い」を見つけましょう。

2 感情表現が苦手な子供には特に気配りが必要です。

- イ、「ちょっとしたこと」は子供達にとっては「ちょっとしたこと」では無いのかもしれませんが。
- ロ、相手の表情、眼、声、喋り方などに気を配り、小さな違和感を見落とさないようにしましょう。

⑦関係諸団体との連携と引き継ぎ

地域の青少年を健全に育成するためには、一人だけではなく地域全体で取り組まなくてはならない。

1 一人一人の自主的な取り組みから始めましょう。

- イ、自分が出来ることから取り組みましょう。
- ロ、一人で出来ないことも皆で取り組めば大きな力となります。
- ハ、地域全体での取り組みが思いやり溢れるコミュニティを構築します。

2 小さなコミュニティから大きなコミュニティへ。大きなコミュニティから小さなコミュニティへ。

- イ、青少年の健全育成のために活動している団体が地域に存在します。
- ロ、コミュニティ同士、連絡を密にして情報を共有し、連携を取り合いながら取り組む事が肝心です。
- ハ、どのような事を行いどのような結果になったのかを知り、検討、再考する事で後の活動の糧にしましょう。
- ニ、合同での新しい取り組みにも発展させましょう。

⑧夜回り体験

地域の青少年を健全に育成するためには言葉だけではなく本気の行動で示さなくてはならない。

青少年の健全育成のための取り組みとして、夜回り活動をしている例があります。

実際に街を歩き少年少女に声をかけ、時間をかけてあらゆる話しを聞き相談を受けています。体当たりでぶつかることによって悩みを抱える少年少女も心を開いています。本気の触れ合いにより心が通うことにつながります。

⑨夜回り組長から地域の大人へのメッセージ

親や大人は子供を叱る時は、きっちりと叱りその後のフォローは叱った3倍も5倍もして欲しい。そして褒める時には褒めまくる。そのようにして子供を大切にしてもらいたいと思います。子供の非行は親や大人に責任があると考えます。大人達の中には自分らの子供だけ構ってれば良いと言う人もいらっしゃいます。そんな小さな事にこだわらず自分の子を守り、人の子を守り地域一丸となって子供達に目を向け耳を向け体を張って子供達を守るようにならなければ明るいまちにはならないと考えます。外でたむろしている子供らは家ではなく屋外の引きこもりであることを忘れてはなりません。子供らにとって家庭は楽園であることを思い出させてあげてほしい。どうか子供を、人を大切にしてください。

夜回り組長 石原伸司

⑩“いのちの電話”から地域の大人へのメッセージ

絆から離された人たちの為に

いのちの電話は、悩みを抱えて、心の痛みを感じていても、それを家族や恋人、友人、同僚などに打ち明けられない方からの電話を、毎日24時間取り続けています。電話を受けていると、繋がるべき人たちとの絆を持っていない。あるいはそこから離された方が、孤独の中で悩みから抜け出せずますます深みにはまって死ぬしかない追い詰められていく危険を感じます。周りにいる方々との絆、もう少し強め広げる努力をしてみませんか…。

社会福祉法人北海道いのちの電話 南 槇子